

令和元年度 第3回草津市環境審議会 議事録（概要）

■日時：

令和元年9月30日（月）14時00分～15時30分

■場所：

草津市役所4階 行政委員会室

■出席委員：

会長	小林 圭介（学識経験のある者）
学識経験のある者	小笠原 好彦、 壽崎 かすみ、 樋口 能士、 山川 正信
産業を代表する者	奥田 裕介、 鎌田 迅斗、 中川 智、 森 毅、 横江 元康
市民を代表する者	伊藤 かがり、 木村 葉子、 土佐 洋志、 原田 聖明、 松村 幸子
関係行政機関の職員	海東 まどか

■欠席委員：

副会長	山田 淳（学識経験のある者）
学識経験のある者	山崎 賢 、 横田 岳人
産業を代表する者	磯貝 佳則

■事務局：

環境経済部長	藤田 雅也
環境経済部副部長	岡田 芳治
環境政策課長	馬場 英樹
環境政策課	柴野 明子、 榎本 実、 福永 安博
くさつエコスタイルプラザ館長	辻 智
くさつエコスタイルプラザ館長補佐	藤野 剛志
くさつエコスタイルプラザ	齊木 友理

■傍聴者：

0名

■議題等：

1. 「愛する地球のために約束する草津市条例」の見直しについて

2. その他
 - ・次回審議会について

1. 開会、部長 挨拶

2. 議事概要

(1) <報告事項>

「愛する地球のために約束する草津市条例」の見直しについて

資料1：愛する地球のために約束する草津市条例 改正概要

資料2：愛する地球のために約束する草津市条例 新旧対照表

資料3：愛する地球のために約束する草津市条例 前文改正素案

【事務局】

<資料1、2、3について説明>

【会長】

只今説明のあった、条例の前文および前文以外の条文について意見を伺いたい。

【委員】

前文以外はこれでいい。案1、案2は条例の前文としては大きい。案4が良いが、目的が書かれていない。案3は具体的なので、案3に案4をプラスする形がいい。

【委員】

案1と案2は、国や世界の政策を書いている割には、市民レベルの表現になっていて違和感がある。案3と案4がいいが、目的が書かれていない。

別件で、企業との協定書に気候変動への適応を、どのように関連付けるのか伺いたい。

【事務局】

健康面では水分補給やエアコンの適正な使用、産業・経済面では災害に向けた会社の計画をもう一度見直す等、適応策のところを協定書の中に入れていただけたらどうか。

【委員】

実際の計画書にガスの排出抑制という項目があり、ここへ反映できたらよいと考える。

【委員】

前文について、案1は難しく案4はわかりにくい。案3には「愛する地球」という言葉が入っており、条例の前文として良いと考えた。

【委員】

案3が良い。理由は4つの案の中で一番わかりやすく、いろんな世代に見てもらえる。

【委員】

案3を中心に考えれば良いと思う。案1案2は、子どもも対象となる条例としては具体的に過ぎる。案4の中にある草津の身近な風景が案3に一言でもあればさらに良い。

【委員】

案1がはっきりしていて良いが、市民全体を考えると案3が良い。ただ、温暖化の原因は人なのに受け身で記載されている。人間の責任をはっきりと追記した方が良い。

【委員】

適応について、努力等の曖昧な形でなく、決まり事で書かれているところが気になる。前文は、人間が原因でこうなったとわかりやすいため、案2が良い。

【委員】

案2が良く、人間だけでなく地球上の全生物が被害を受けるということが書かれており、小学四年生に対しても特に難しい文章ではないと思う。

【委員】

普段の会話で、夏は暑い日が多くなった、春や秋を感じる日が少なくなった、冬は暖かい日が多くなった等の発言が多く使われるが、これと合致する案2が良いと考える。

【委員】

第7条の10年後に見直すというのは、見直し後も生きるのか。

【事務局】

気候変動等の状況変化により条例改正が必要になるという意味でこの文章がある。今後必要ならば審議会に諮問させていただくため、今回の改正には入れていない。

【会長】

見直しの件は条例としては非常に珍しい。この条例の特徴だと解釈いただきたい。

【委員】

最初の条例の流れを引き継いで柔らかい感じの案4が良いが、目的・目標があまり含まれていない。案4に、案2を一部取り込んだ形でもう一度考えていただきたい。

【委員】

案1は専門的で硬く、案4はもっと現実がわかる形が良いと思う。

案2と案3が良いが、案2の原因というところを案3に入れた形が良いと思う。

【委員】

案4は四季に触れており楽しみがある。案2、案3、案4でうまくまとまらないか。

【委員】

案4は四季の情景が描写され、市民を意識された特徴的な文体なので捨てがたい。しかし案2が現状と課題がわかりやすいという印象を受ける。

【委員】

条例の見直しは、必要な時に見直しをすればよく、特に10年でなくて良いと考える。前文は、「愛する地球」という文言が入っており、シンプルな案3が良い。

【会長】

区切りとして、前文以外の条例案文は、見直し案でお認め頂いたことにさせていただく。問題は前文だが、案1を除く案2、3、4が良いところだ。

案2は、自分たちに責任があるという所にインパクトがある。案3は、前半が硬く後半が柔らかく段差がある。案4は、前回の前文を踏襲しており取りつきやすい。

【委員】

案3は、「この愛する地球が」この言葉が入っているので一番良いと思った。

案2は直接的な表現があり、少し異論がある。案2を生かして、「今こそ、私たち人間は」の前に、案3の「この愛する地球が」という文章を入れたらどうか。

【委員】

「今こそ」以降の文章は、その上の内容をかなり含んでおり、無駄な文が綴られている。

【委員】

案3が良いが温暖化は我々が原因なので、温暖化進行の原因を謳い、改善状況・生態系の変化の順に謳い、地球を守ろうという流れに前半部分を変えたらどうかと考える。

【委員】

案2の「豊かさ、便利さ、快適さを求めて」そのものが悪ではない。人間は豊かさ便利さ快適さを求めるものだ。このことと温室効果に貢献することは、必ずしも相反しない。

【委員】

快適さの追求は悪いことではないが、環境のことを無視して求めるのはまずい。無視ではなく知らなかっただけかもしれないが、知ったからには振り返る必要がある。

【委員】

今のことが、持続可能な共生に含まれていると思う。共生できる程度の豊かさ、便利さ、快適さを追求するということだ。案2の最初の文章は、大人は理解できるが、子どもは「快適な生活が悪」と思ってしまうかもしれない。極論を言うと、今の問題を引き起こしたのは自分達より上の人間だ、というのが子供ども世代の本音だと思う。なので、「人間の暮らし」イコール「ネガティブ」と露骨に出す必要はないと思う。

【会長】

よく見ると、快適さや便利さを否定しているわけではないことが分かる。これらを求めてきたことが二酸化炭素増加の原因だということに掛かっている。

【委員】

若者は、豊か・便利・快適は当たり前と思っている。市民のどこに焦点を置くのか。

【会長】

前文で必要なことは、温暖化に何故なったかを盛りこむことだ。

【委員】

案2の豊かさ・便利さというところは、草津市だけか、日本全体で考えるのか。途上国の発展を考えると、温暖化ガスの排出は今後も増えていく。それを減少できる環境負荷の少ない技術開発を進めているのは、途上国等に普及したときに耐えるためだ。豊かさや便利さや快適さは地球上の皆が享受しながらやっていこうというのが本当だと思う。

【委員】

実際草津市にも優良な企業が多く、省エネ技術を積極的に採用していこうというのが、条例の目指す部分のひとつだと思う。

この条例がどこで適応されるのか考えたとき、持続可能な共生というのが、地域の産業と矛盾しない合致したものとして進んでいるとか、市民の暮らしもライフスタイルの

少しの変化で環境に貢献できるとか、そんなニュアンスにした方がいいと考える。

【会長】

そのことが「今こそ」以下に書かれているが、持続可能な共生という中にいろいろ含まれており、重複していることは確かだ。前回の条例制定時には、なるべく肯定的な意見を盛り込み、あまり否定的な意見は盛り込まなかったため悩ましい。

【事務局】

皆さんの意見が多かったのが、案2と案3が良いという意見だ。

案2は、人間が温暖化の原因を作ったということを入りたいという意見が多く、案3は、柔らかな書き方と「愛する地球の」という言葉が含まれているところがいいという意見が多かった。このような話がなされていたという認識でよろしいか。

【委員】

今までの整理はそれで問題ない。

【委員】

案2は具体的で、案3は抽象的だが、どちらが読み手に分かりやすいかだと思う。学生たちには抽象的な表現は難しいと思う。案2くらいはつきり書いた方がよい。

【委員】

案2をベースに、「豊かさ、便利さ、快適さを求めてきたことが」という部分を消して、「私たちは、日々の暮らしの中で二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を増やし、後と一緒に、「地球温暖化が進むことで、地球はさまざまな影響を受けています。」続いて、「夏は非常に暑い日が、冬は暖かい日が以前より多くなっています。地球温暖化が進むと」、途中ここでカットして「異常気象がおきる回数が増えるなど、私たちの暮らしや社会、地球上の生き物は」で、後と一緒にする。

最後、案3の「愛する地球」の話は、後半の部分の「身近なところから、できることから」の隣に、「愛する地球のために良いことを始める云々」と「愛する」を入れる。後ろにも「地球を愛し続ける」というのが入っている。案2を少しカットして単純にして、案2をベース少し単純にした、この案でどうか。

【委員】

「私たちの暮らしや社会」ここはこのままか。「暮らし」は「社会」を含むと思う。

【会長】

「暮らし」というのは、一つの行動・活動を指し、「社会」というのは、ある地域なり広がりを持ったものとかそういう暮らしをするものたちの集まりだと考える。

【委員】

「被害」という言葉は、「影響」にしなくてよいか。

【会長】

「影響」は被害を含んでいるが、インパクトを与える意味で「被害」とした方がよい。

【委員】

冬は暖かい日が増えると、薄着で過ごせる日も増える等、良いこともある。

【委員】

影響の方が正しいと思うが、冬暖かくて被害を受けていないというのは、回り回って何らかの被害が我々に来る。警鐘を鳴らす意味でも「被害」とした方がインパクトがある。

【委員】

案4の「素晴らしい四季の風景を」というところを入れてほしい、何とかならないか。

【委員】

案4は前の文章をそのまま直した形であり、今回は改正案なので避けて、案2を主体に案3と合体した先ほどの案が良いと思う。

【会長】

先ほどの提案のとおりとしたい。「被害」と「影響」という細かい部分は残っているが、先ほどの案をベースに事務局で整理したものを委員にお配りして意見を聞かせたい。そのうえで各委員がチェックをし、意見を事務局に返してほしい。大きな変更が無ければ私と事務局で決め、委員に周知させていただく。

3. 閉会

【事務局】

次回の審議会は「第2次草津市環境基本計画の進捗状況」について御審議いただきたい。

次回の審議会は日程調整の上、11月頃に開催させていただきたい。本日は誠にありがとうございました。

以上